

宝物はすぐそばに

校内研通信

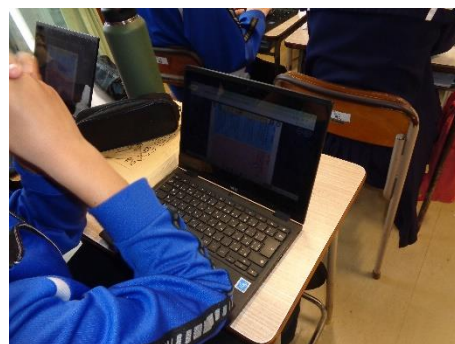
第48号

R8.2.17

発行者:校内研担当 仲村智

藤村の“初恋”を【君】視点で創作！新たな『林檎』スター誕生☆

2月17日（火）2校時、3年6組にて小橋川一先生が国語の授業を公開しました。本時のねらいは、島崎藤村の初恋を【君】視点で書き換える活動を通して、表現の工夫をすることで作品を味わうことです。導入で前時までの振り返りや文語定型詩の確認、全員での音読、本日の課題を提示しメインの活動となる【君】視点での書き換えに取り組みました。口語体での創作でありながらも、7・5調にすることに苦勞し、なかなか思うよう進まない生徒もいましたが、一先生の丁寧な机間指導や場面設定の確認、あるいは例示などを交えることで、生徒はその独創性を徐々に発揮してきました。何より、一先生自身が生徒から出てくるアイデアに素直に反応し、良さを褒めちぎることで、生徒も相乗的に表現していく様子が見られました。生徒よりも先生が一番楽しんでいる、そんな余裕が感じられる授業でした😊 一先生、素敵な授業をありがとうございました。



RS
みつけた!

島崎藤村の詩『初恋』を用いた本時の学習課題「『君』視点での書き換え」は、文学的な創作活動に見えて、実は極めて高度な認知的負荷を生徒に要求する。一先生のチャレンジ精神を称えたい。以下RS視点で本時を振り返る。

・ 照応解決 (ANA) と係り受け解析 (DEP) の視点

「やさしく白き手をのべて 林檎をわれにあたえしは」という一節において、書き換えを行う生徒は「誰が」「誰に」林檎を渡したのかという格要素を正確に同定しなければならない。詩中では主語が省略されていることが多く、視点を反転させる（少女側から記述する）際には、格関係の誤認に気をつけさせたい。

・ 同義文判定 (PARA) と具体例同定 (INST) の視点

文語定型詩という特定の制約がある表現を、意味を変えずに口語の文章へと再構成する行為は、高度な「同義文生成」である。また、抽象的な比喻（例：秋茄子のような瞳）を、定義に基づいて具体的な情景説明へと翻訳する作業はINSTの能力を試す。ここで「なんとなく」の言い換えに終始させず、原文のどの語彙が現代語のどの表現に対応しているかを論理的に一致するかを問い返しながらか確認していく必要がある。